

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2013-08-25

APM news 090

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

第21回美術館大学 8月3日(土) pm3:00~4:30/受講者:63名/講師:平山育男

第2部 「我 斯く 建築に向かう」



第2部の平山氏の講演は、APM、配水塔、機那サフラン酒本舗の建物の3つについて解説していただいた。APMを始めこれらの建造物はすべて平山氏が調査し、歴史的建造物であると証明したものである。

APMは1925年に建てられた長岡商業銀行(現・北越銀行)宮内支店の建物を、2009年に美術館としてリノベーションしたものである。しかし建物は建設当初のままAPMに引き継がれたわけではない。1952年には道路拡幅のため曳家、同年本館の改造、1970年田上商店倉庫としての改装と、APMになるまでに4度の改装が行われた。調査にあたり、あるときは屋根裏の壁に残った蔦のあとから痕跡を見つけ、またあるときは当時の新聞をあたり、探偵さながらに証拠を見つけていく作業が続く。その証拠が集まっていくと、ようやくAPMの歴史的建造物としての姿が現れてくる。その時代の中でAPMがどのような存在だったか、価値が分かってくるのである。

配水塔に関しての講義は特に興味深い。戦前、新潟県内には7基もの配水塔があった。これは東京都、大阪府の8基に次ぐ数字であり、なぜ大都市とも言いがたい新潟に、これほど多くの配水塔が設置されたのであろうか。それは新潟には越後平野という広大な平野があったためである。平野部で安定した給水を維持するためには十分な水圧が必要となる。そのため巨大なタンクを高所に設置し圧力を加え、水を遠方まで運べるようにしたものが配水塔である。よって、新潟県内には多くの配水塔が設置された。配水塔を保存する際、予備発電機室は取り壊していいのではないかという意見もあったが、災害時、停電になっても消火できるだけの水を維持できる技術の形を残すことは重要であるとし、保存することとなった。

「技術には形があり、形には意味がある」とは平山氏のお言葉である。

サフラン酒本舗の建物は吉澤仁太郎の邸宅である。サフラン酒で財を得た吉澤氏は1894年に摂田屋へ移転、1912年には主屋の増築を行っている。その造形は旧宅部分に増築部分が重なるような特徴的な様式である。サフラン酒本舗の調査を進めるうち、平山氏はサフラン酒本舗と1934年築の朝日酒造・松籟閣が似ているのではないかと考え始めた。そこで調べてみると松籟閣を造った安達工務店は小千谷市片貝にあり、その近所である長岡市浦にサフラン酒本舗の増築を担当した西脇浜吉が住んでいたことが分かった。つまり、安達工務店と西脇浜吉の間で何らかの情報の交換があり、一見関連のない二つの建物が似た様式になったのではないかと平山氏は考えた。様式は地域で生み出され伝承されるのである。

最後に平山氏は、「時代」「技術」「造形」と表示されたスクリーンの前で、時代の要求に応じているか、技術を使っているか、施主に言われるがままの造形になっていないか、これらのことを深く追求し、年月がたっても残るような作品を作りたいと締めくくった。(APM公式ホームページより抜粋)